

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・札幌駅前開発にともなう客の動員が期待されるため、活気づくと思う。
		衣料品専門店（店員）	・3月6日にオープンする札幌駅の大手百貨店、ファッションビルでの消費が増えることで、相乗効果として来客数が見込める。
		家電量販店（地区統括部）	・札幌駅南口に大手百貨店がオープンするため、客の流れが大幅に変わることが予測され、当社にとってはプラス要因となる。
	変わらない	一般小売店〔酒〕（経営者）	・売上、客数を見るとほぼ横ばいであり、底入れの状態が続くと思われる。
		一般小売店〔土産〕（店員）	・正月や雪まつりの観光客の動向を見ると、ゴールデンウィークや初夏の観光シーズンが要因になって観光客が動くとは考えられず、昨年よりも売上が減少すると思われるため、全体としては変わらない。
		百貨店（売場主任）	・これまでと同様に、春物商品の値下げ時期には夏物が入荷し始め、今度は夏物の値下げ待ちという状況が考えられる。いずれにしても客の買物状況がセール品中心の購入に集中する傾向になっている。
		スーパー（企画担当）	・消費者の心理状況がとにかく悪い。誰もが将来に対して悲観的に考えているので、消費意欲が出ないと思われる。
		スーパー（企画担当）	・大手百貨店の札幌進出は、消費のプラス材料として期待したいが、統一地方選挙を控えていることに加えて、昨今の客の購買動向から判断しても、大きなプラスの変化は可能性が低いと思われる。
		コンビニ（エリア担当）	・現時点での状況は、数字的には安定してきたと感じられるため、全体としては変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・客数の変動は少ないが、客単価の低下は継続状態である。将来に向けての良い材料はないが、急激に悪化するということもないように思われる。
		家電量販店（店長）	・昨年は5、6月にワールドカップ開催によるPDP、液晶、ハイビジョンテレビなど、高単価のテレビが売れたが、今年はこの時期に大きなイベントがない。
		家電量販店（店員）	・春先は新入学需要があるが、下見の客が少ないことに加えて、来店したとしても複数の店を回る客が多い。
		住関連専門店（営業担当）	・不要の品は買わないという傾向が、来客数の前年割れに現れている。また、原油高による商品の値上がり、買いだめの傾向が若干現れており、結果として売上を押し上げているが、沈静化すれば元の状態に戻るものと思われる。
		高級レストラン（スタッフ）	・4月は選挙があることもあり、予約が少ない。また、5月以降も見込みはあまり良くない。
		一般レストラン（スタッフ）	・特に良くなる要素が見当たらないが、これ以上悪くもならないと思われる。
		スナック（経営者）	・春先は歓送迎会などの時期だが、最近ほとんど行われなため、期待はできない。
旅行代理店（従業員）		・これ以上悪くなりようがない。底まで来た感じがす	
美容室（経営者）	・消費傾向は良くも悪くも固定化されてきている。		
やや悪くなる	商店街（代表者）	・世界情勢、国内経済、政治など、何をとりても明るい兆しは見えない状況であり、消費心理として財布のひもは相変わらず緩むことはないと思われる。	
	百貨店（販売促進担当）	・景気低迷はまだ底についておらず、一向に先が見えない。また、駅前の大手百貨店の新規出店にともなう市内購買ゾーンの変化による影響を今後どのくらい受けるのかが不透明である。	
	コンビニ（エリア担当）	・公共工事の予算編成が4月に開始されるが、予算の削減が見込まれているため、その影響を受けると思われ	

		衣料品専門店（店長）	・倒産も多く、客の話から将来が心配であるという声が多い。特に中年以上の客が非常に心配しているようである。
		乗用車販売店（従業員）	・支払にローンを使う人が少なくなり、また使う場合も金利に対して、かなり厳しい目で見ている。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・悪い意味で買わない感覚が定着しており、かなりインパクトを与える展開を考える営業姿勢が必要と思われる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・コスト競争がさらに激化し、低価格競争が繰り広げられる。
		一般レストラン（スタッフ）	・ますます飲食業の中での負け組、勝ち組の差がはっきりして、厳しい状況になると予想される。
		旅行代理店（従業員）	・イラクや北朝鮮の問題など、国際情勢への不安感から海外旅行の低迷が続くと思われる。
		タクシー運転手	・昨年からのタクシーの規制緩和が始まり、1年経過したが、札幌市内のタクシー台数は昨年の同時期より増えているため、これから雪が溶け、タクシーの利用が減る時期に、1台当りの売上は、ますます減ってくる。
		タクシー運転手	・今年は地方選挙の年で、選挙の年は売上は良くないといわれているがやはり夜の人数が少なくなってきてい
		住宅販売会社（従業員）	・経済的な上昇が見込める要素がないことが第一であるが、収入が落ち込んでいることや、人が減らされているといった状況は変わらないので、こうした抜本的な状況が変わらない限りは、景気は上向きにはならないと感じ
悪くなる		スーパー（店長）	・景気が向上する、消費が高まるという好条件は全く見当たらないため、さらに悪化する。
		スーパー（店長）	・将来に対する生活不安が増大する傾向にあり、消費支出は減少傾向になると思われる。最近の株安、失業率の増加、大手銀行の経営悪化にともなう連鎖倒産の懸念など、消費マインドへのマイナス要因が増加する傾向にある。また、札幌市周辺では3月6日の大手百貨店の開業による既存小売店への影響も想定される。
		コンビニ（エリア担当）	・現在の経済の動きに対して客が敏感になっており、なかなか買物をしない状態である。旭川に関しては倒産件数も多く、地域経済も非常に弱くなっているため、今後、さらに経済悪化の傾向が強まるのではないかと
		スナック（経営者）	・スキーツアーや観光ツアーも減少しているが、統一地方選挙が始まるとさらに観光客が減少して暇になると思う。これからの先行きは非常に悪いと思う。
		観光型ホテル（経営者）	・発泡酒やたばこの値上げ、医療費負担増などの問題があるが、さらに選挙が加わるため、先行きは真っ暗であり、お手上げの状況がくることは「必至」としか考えら
		旅行代理店（従業員）	・世情不安があるため、海外旅行は控えめであることに加えて、現予約のものも今後の成り行き次第では取消しが予測される。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅業界は供給過剰により、企業が淘汰されつつあるが、まだまだ淘汰される企業数が足りないため、しばらくの間は厳しい状態が続くと思われる。
	企業動向関連	良くなる	-
やや良くなる		食料品製造業（経営者）	・海外情勢が不安定な事から、海外旅行から国内旅行にシフトすると予想され、国内における商品の販売量が増えると予想される。
		建設業（経営者）	・3月の土木の公共工事の発注状況から、若干ではあるが工事が動き始め、景況感に現れると思う。
変わらない		食料品製造業（団体役員）	・北海道は季節の変化による衣料品、食料品の消費動向の増減が大きく、今後に期待感はあるが、社会保障費の負担増や景気回復策の進展が見られず、景気動向は変わらないものと思われる。
	家具製造業（経営者）	・全体的にはむしろ景気は後退局面にあると思うが、いわゆる高級品や品質の高い商品はむしろ需要が伸びてくると思われ、全体としては変わらない。	

	通信業（営業担当）	・季節要因での需要増が思ったほどではないが、一部業種からの問い合わせは増加傾向であり、この先の景況感としては、可もなく不可もなくという感触である。
	通信業（営業担当）	・今月は受注量が増えると予想していたが、何の変化もなかったことから、しばらくは良くも悪くもならないと思う。
	金融業（企画担当）	・道内産業に大きなウエイトを占める建設業は手持工事が少ないが、今年度補正予算の執行と雪解けの季節となり、マインドの向上が期待できる。
	司法書士	・景気が良くなる、悪くなるという問題ではなく、停滞感がごく当たり前のようになってきている。
	その他サービス業 [建設機械レンタル]（総務担当）	・年度末から続いていた公共事業が新年度に入ってからもしばらくは続くが、補正予算との関係から考えても、現状とあまり変わらない。
やや悪くなる	輸送業（営業担当）	・原油価格の高騰など悪材料が懸念される。
	その他サービス業 [建設機械リース]（支店長）	・倒産企業が増えているように、持ちこたえるのが限界になった企業が増えつつある。
	その他サービス業 [建設機械リース]（支店長）	・構造的に変化がなく、古い業界での倒産が増えるのではとの印象がある。
	その他非製造業 [機械卸売]（従業員）	・溶接材料の4月出荷分から、メーカーの値上要請があった。エンドユーザーは加工単価安で苦しんでおり、100%の値上転嫁ができる状況になく、結局、流通業者が一部をかぶることになりそうである。
悪くなる	輸送業（支店長）	・公共事業の予算編成の遅れが心配される。
	司法書士	・不動産の売買が例年になく少なく、春先の個人住宅新築の話も少ないため、景気の上昇は見込みが薄いと思わ
雇用 関連	良くなる	-
	やや良くなる	人材派遣会社（社員） ・3月オープンの複合商業施設の話題が明るい消費効果を与えることが予想される。加えて、卒業、新入学の消費効果、さらには雪解け・春を迎える期待度が心理的に前向きにさせられると思われる。ただし、建設、土木業をはじめとした不採算業種の倒産動向、流通業の利益低減は、先行き不安要素として重くのしかかったままであ 求人情報誌製作会社（編集者） ・例年の傾向である春先人事の雇用動向から考えると、現在のところ順調にきている。また、昨年、読者に分かりやすい紙面づくりを目指し、求人雑誌をリニューアルしており、その効果が表れてきている。
	変わらない	人材派遣会社（社員） ・求人社数数は減少していないが、単発、スポット的なものが多い。求人社数数よりも求職者数が多い状況は依然変わらない。 求人情報誌製作会社（編集者） ・下げ止まり、やや上向きに見える求人の件数も、地域や個別の業種、企業に特化した動きは収まり、今後も伸びる要因は見当たらない。 求人情報誌製作会社（編集者） ・全体では弱含みではあるが、一般小売業や飲食業の求人意欲が盛んであり、全体としては大きな変化は見られ 職業安定所（職員） ・企業の経営不振によるリストラが進み、求職者が増加する可能性がある。 職業安定所（職員） ・有効求人倍率がなお低い水準で推移すると思われる。 職業安定所（職員） ・建設業および関連産業が工事完了により、事業を縮小していることから、雇用需要が見込まれない。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者） ・全体的には求人件数は前年並みではあるが、雇用形態では正社員の求人件数の減少が依然続いており、決して見通しは明るくない。
	悪くなる	職業安定所（職員） ・建設業、サービス業を中心に事業主都合の解雇が止まらず、求人倍率も低下傾向にある。